

平成29年度第2回高山市環境審議会 議事要旨

日 時：平成30年2月19日（月） 午後2時～4時

場 所：高山市役所4階 特別会議室

出席者：梶井 正美（★会長 高山市民憲章推進協議会）

小野木三郎（★副会長 学識経験者）

大森 清孝（学識経験者）

圓田 辰吉（学識経験者）

岡田 賛三（ひだ自然エネルギー協議会）

寺田 俊明（荘川町まちづくり協議会）

中川 正（高山市森づくり委員会）

今井久和子（高山生活学校）

森口 弘樹（濃飛乗合自動車（株））

川田 裕司（岐阜県（飛騨県事務所環境課）） 計10名

欠席者：石原 陽子（学識経験者）

松井多美子（高山商工会議所（女性会））

岩本 洋子（高山市農業委員会）

河渡 正暁（高山市快適環境づくり市民会議）

都竹 雅弘（中部電力（株）高山営業所） 計 5名

事務局：副市長 西倉良介、環境政策部長 浦谷公平

環境政策推進課 課長 清水一徳、係長 野首勇人、山郷三昭
担当 松場実千雄

生活環境課 課長 小林一正、担当監 清水弘一
係長 黒木雅之、牧ヶ野英明

議 事：1 開会

2 副市長あいさつ

3 議事

(1) 高山市の環境施策の進捗状況について

(2) 今年度の環境施策の取組状況について

4 閉会

配布資料：資料 高山市の環境施策の進捗状況

議事要旨

○高山市の環境施策の進捗状況について 事務局説明

(梶井会長)

・太陽光発電が主体となっているが、売電価格が下がっている状況で今後増加する見込みはあるのか。

(清水環境政策推進課長)

・飛騨地域における送電線の空容量がない状況となっているため、これまでのように増加していくことは考えられない。

(岡田委員)

・CO2削減という視点からも、これからは自然エネルギーで発電した電気は、売電ではなく自家消費する方向ではないか。
・電力会社が化石燃料で発電した電気の使用量を抑えることに繋がる。
・CO2削減目標の達成に向けて木質バイオマスや太陽光など自然エネルギーの普及を進めるべきである。

(小野木副会長)

・飛騨地域には水力発電が多くある。新たな発電設備を整備するより、既存の水力発電設備のタービン更新などで効率を上げるべきである。そうすることで水力発電の稼働率があがるのではないかと脱原発にもつながる。

(梶井会長)

・電力会社は、水力や火力で発電した電気をトータルして配電しているので、飛騨地域は水力発電で賄うということにはならない。

(大森委員)

・自然エネルギーの中でも太陽光発電がメインとなっているが、最初は空いている屋根への設置だったはず。最近では、コスト面からも大規模な発電が増えてきており、山林を切り開いて設置するものが出てきている。環境アセスが必要な大規模な太陽光の相談も増えている。
・せっかくの山林にパネルを設置することは、自然破壊にも繋がりがかねないため慎重に進めるべきである。

(岡田委員)

・森林は、CO2を吸収する役割も持っている。その森林を伐採してパネルを設置するのは抑えるべきである。

(浦谷環境政策部長)

・開発指導の中で、太陽光発電を抑制する区域の設定や設置基準を策定して、生活環境や

景観の維持保全を図りながら導入をすすめることにしている。

(小野木副会長)

- ・この問題は、飛騨に限らず全国的に問題となっている。また、森林だけでなく農地への設置も問題だと思っている。
- ・電力の自由化と言っているが、大手電力会社以外と皆が契約しても供給されるのか。

(浦谷環境政策部長)

- ・電力市場があるので、電力小売会社が自ら発電しなくても調達できる仕組みとなっている。

(岡田委員)

- ・地域で発電して地域で使うことが、化石燃料による電力量を減らす唯一の道ではないか。
- ・新エネルギーによる電力の創出量目標値90,000MWh/年を達成できるのか。

(浦谷環境政策部長)

- ・厳しい状況であるが、努力していく。

(大森委員)

- ・CO2削減で最も貢献することは、電気を使わないことである。消費電力を減らす取組みを進めるべき。消費電力を10%削減すれば、CO2も同様に削減できる。照明のLED化は、マイマイガの影響で随分進んだが、発電よりも省エネの発想で進める方が早い。

(梶井会長)

- ・そのとおり。発電だけでなく、節約(省エネ)を同時にすすめるべきである。

○今年度の環境施策の取組状況について 事務局説明

(岡田委員)

- ・下水熱を活用した凍結防止について教えて頂きたい。

(浦谷環境政策部長)

- ・下水道管に流れる生活排水の熱を利用して、路面凍結を抑制しようとする試みで、下水道管内と路面下に熱導管を敷設し、不凍液を介した熱交換によって融雪する仕組み。

(小野木副会長)

- ・自然環境学習は、専門ガイドによって実施されているようだが、どのような能力や資格を持った方が担っているのか。

(山郷自然環境係長)

- ・自然環境学習事業でお願いしているガイドの方は、子どもの頃から地域の自然に触れてきた自然に詳しい地元の方をお願いしており、資格を有している方ではありません。

(小野木副会長)

- ・以前から自然観察員講習会の開催を市にお願いしている。また、自然公園は乗鞍や五色ヶ原だけではないので視野を広く施策を展開して頂きたい。
- ・自然環境学習は、必ずしも五色ヶ原などの優れた自然環境で行う必要はなく、身近な故郷の自然の理解を深めることなので、それぞれの学校の地域で環境学習を進めるべきである。

(山郷自然環境係長)

- ・市から学校に対して五色ヶ原の森での環境学習をお願いしているのではなく、それぞれの学校に希望を伺いながら実施している。

(大森委員)

- ・山の自然学校や自然環境学習、山の日推進事業など色々と取組みを進めており、全体として評価できる。

(浦谷環境政策部長)

- ・自然環境学習は、いろいろな場所でできることを周知していく。

(大森委員)

- ・オオハンゴンソウ防除の取組みを進めて頂いているが、種の供給先がどこであるかを押さえて行うべき。
- ・特定外来生物については、オオハンゴンソウだけでなく、ブラックバスやブルーギルについても常に目を光らせておくべき。
- ・特定外来生物ではないが、鯉は世界の侵略的外来種ワースト 100 にも入っているので祭前に宮川に放つのは止めた方がいいと思う。宮川にはイワナやヤマメが居るのでそれらを見てもらう方がいい。

(梶井会長)

- ・宮川の鯉の放流については、かつてはたくさんいた鯉の養殖業者も少なくなっているのので今後はできなくなると思う。

(小野木副会長)

- ・外来生物であるセイタカワダチソウが増えてきている。わかりやすい植物なので市民の協力を得てデータ収集していくと侵略過程も残る。
- ・以前、環境審議会委員で勉強会を開いたことがある。帰化生物についての勉強会をまたやったらどうか。

(大森委員)

- ・これまで継続してきた事業についても、内容を工夫し中身を濃くして実施するといいい。例えばカワゲラウォッチングでも水中昆虫だけでなく魚も観察するといいい。少しずつ工夫をして事業を進めて欲しい。

(梶井会長)

・カワゲラウォッチングは県の方でもやっているはず。ぜひ県と市でタイアップして実施して欲しい。同じ場所で継続的に実施してデータを蓄積するといい。

(岡田委員)

・専門家がいらっしゃるなので勉強会を開催して頂けるのなら、私も講義を聴きたい。市の方には全てを知っていて欲しいのでぜひ開催をお願いしたい。